さんご保育園　保育内容等自己評価

令和4年度

自己評価対象項目	保育者が理解してる割合	評価及び改善点
第1章　総則		保育・養護に関する基本的な項目については、概ね共通理解がなされている。しかし、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿については、実際の保育の内容との整合性を説明するまでに至っていないので、園内研修等で保育指針を確認し共通理解を持つ必要がある。発達支援児保育については、担当者は十分理解しており、対象児童については全職員の共通理解が図られている。
1、保育所保育に関する基本原則	91.1%	
2、養護に関する基本的事項	96.4%	
3、保育の計画及び評価	94.6%	
4、幼児教育を行う施設として共有すべき事項 ・「育みたい3つの資質・能力」と「育って欲しい10の姿」	84.5%	
・子どもの発達	100.0%	
・特別支援教育・発達支援児保育	96.6%	
第2章　保育の内容		保育内容については、乳児、３歳未満児及び３歳以上児のそれぞれのクラスとも共通理解がなされている。保育環境については、今年度は特に子どもたちが集中して遊び込めるよう職員間で定期的に話し合いながら、子どもが自然に遊びに集中できるよう園庭の環境を整えてきたが、引き続き職員間で意見を出し合い、環境の整備に取り組んでいく。 コロナ禍で地域の行事が中止となり地域の方々と交流を持つことが出来ない状況が続いているが、5類感染症以降後は社会状況を見ながら、交流の機会があれば積極的に参加していきたい。また、保護者や祖父母もなかなか保育の状況を実際に目で見て確認することが叶わない状況であったので、保育参加やお招き会など親子で楽しむ行事も状況を見ながら取り入れていきたい。
1、乳児保育に関わるねらい及び内容 ・身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」	100.0%	
・社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」	100.0%	
・精神的発達に関する視点「身近なものと関わり感性が育つ」	100.0%	
2、1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容 ・健康	97.8%	
・人間関係	82.2%	
・環境	85.6%	
・言葉	93.3%	
・表現	91.1%	
3、保育の実施に関わる配慮事項（乳児・1歳以上3歳未満児）	84.0%	
4、3歳以上児の保育に関わるねらい及び内容 ・保育内容「健康」	100.0%	
・保育内容「人間関係」	93.4%	
・保育内容「環境」	81.9%	
・保育内容「言葉」	99.3%	
・保育内容「表現」	89.7%	
第3章　健康及び安全		子どもの健康支援や食育の促進については、共通理解がなされている。健康及び安全については、保育の現場においては保育会議等で全職員の共通理解がなされているが、実際に災害が起こった際のハザードマップの確認や地域の状況を職員間で確認する必要がある。
1、子どもの健康支援	92.9%	
2、食育の促進	91.6%	
3、環境及び衛生管理並びに安全管理	81.8%	
4、災害への備え	80.8%	
第4章　子育て支援		子育て支援については、保育園を利用している保護者に対しては配慮が出来ているが、地域の保護者に対する支援についての取り組みが課題である。
1、保育所を利用している保護者に対する子育て支援	93.6%	
2、地域の保護者等に対する子育て支援	91.1%	
第5章　職員の資質向上		職員の資質向上については、毎月の園内研修や自己啓発により取り組みがなされている。更に研修効果を上げるための努力を職員と共に続けていく。
・職員の資質向上	87.5%	